

昭和十六年十一月二十六日

内務大臣 東條 英機

冀ハ官民一致協力シ之ヲ維持管理ニ努メ永ヘニ本事業ノ成果ヲ後代ニ傳ヘラレンコトヲ本日ノ盛典ニ當リ一言所懐ヲ述ベテ祝辭トナス

蔣の輸血路滇滬公路の様々

淡 路 生

今や瀕死の状態にある重慶政府にとつては、その輸血路として西南ルートの確保如何は極めて重要な問題であると共に、我國の東亜共榮圈確立を妨害せんとする英米も亦このルートの確保に至大の力を致してゐる。ワシントン當局者の言明として傳ふるところに依ると、

米國は萬一の場合が來れば重慶援助を強化し必要とあらば滇緬公路經由重慶迄の軍需輸送に對し米國海軍が大西洋航路に於てやつてゐるやうな護送をも行ふであらう、陸上護送の内容についてはまだ明かにされてゐないが恐らくは空軍部隊を以て滇緬公路上を哨戒せしめ、軍需輸送乃至同公路を破壊せんとする爆撃機に對し發見次第發砲せしめることとならう。

と言つてゐるが、昨年十二月四日のサンフランシスコ、クロニクル紙上に於て米國知名の評論家ジンセント・シーエン氏は滇緬公路に關して、近代の機械等を使用せずして只だ多數の人力に依つて建設した滇緬公路は、最初の豫定の如く却々能率が上らず、又幾多の醜態を演じてゐる、十月中にラングーンを積出した一萬八千噸の物資の内重慶に到着したのは僅かに千二百噸に過ぎないといふ有様である。米國の武器貸與法による物資の輸送はまだ開始してゐないが、これは米國では物資が蔣政權の手許まで到着することが確實でない限り貸與法は實施せない方針とも云はるゝのである。道路運営に關し米國人が道路を管理すべしとの意見も

出てゐるが重慶政權はそこまで承認するかは目下疑問である、公路上には雑多な工事管理所があり煩雜な徵稅管理權の阻礙や賄賂の横行などが公路の運営を阻んでゐる、この公路に従事してゐるトラック會社は七會社、雲南省政府の徵稅所が九ヶ所あるが、積荷明細書や通行券など雑多な書類が要求され全道路に互つて警察官は一人もゐない有様である、又修繕所の不足のためにはトラックが破損すると數日間立往生することがあるのみならず、役人の勤務時間が短かく通行許可を待つ時間が長くこれも亦停滯の一原因となつてゐる、然しこれ等の缺陷は二三ヶ月すれば改善されるだらうが、これでは到底日本との戰爭に勝つことは出来ない、且下ラシオ昆明間に鐵道を敷設してゐるが明年十二月「昭和十七年」迄には完成の見込である、現在のところ米國の援蔣政策の遂行は滇緬公路の管理及び防禦如何にかゝつてゐるが、道路が險阻の上に日本軍の爆撃圈内にあるのと雨季には殆んど使用出来ないために米國の専門家は寧ろ別の新しい道路を建設する方がよいと云つてゐる位である。

と掲載してゐるが、重慶派遣の米國使節等は既にこの滇緬公路を調査しつゝあつて、同公路の沿線に一連の不時着用飛行場の建設計畫を樹てたり、又他の使節團は同公路の輸送組織を確立するために種々努力してゐることである、されば西南ルートを繞る英米蔣の合作は今や最高調に達してゐる、即ち滇緬鐵道の建設や

滇緬公路の補強管理に關して種々積極的な協力を行つてゐる。而してこの公路について最近の情報等を綜合して検討してみると、既に滇越鐵道はその機能を失ひ亦滇緬鐵道も早急には用をなさない現在の状況においては重慶政府は抗戰力の補給路としてこの滇緬公路のみに頼つてゐる有様であるが、この公路は去る昭和十三年十一月に完成したものであつて、雲南省の自動車公路の一つである昆明大理間を繋ぐ即ち滇西幹線の經路を昆明、安寧、楚雄、祥雲に延ばしこの延長約八百六十軒を國際情勢の逼迫に伴つて急遽ビルマの國境にまで延長するに至つた公路である。

斯様の次第であるからこの公路の經路は昆明、安寧、楚雄、下關、龍陵及び國境の畹町を経てビルマに入り更に南坎を経てラシオに達する道路の外南坑からイラハジ河岸の、一都會ベモに至る道路とある。その延長は雲南省内では約一千軒ビルマ領内では約百九十軒となつてゐる。さうして總延長は約千九百軒であるがこの公路の沿線には峨々たる山岳が横はり、加ふるに潞江、瀾滄江といふ二大河川の外無數の隘谷があるために建設に當つては相當の難工事であつた。蔣政權はこの公路工事のために雲南省内から約十七八萬の省民を徵備してこの建設に使役したと共にビルマ領内にあつては土民を動員してこれに當らしめて漸く遂に完成したものである。此の滇緬公路はかやうな次第で蔣政權が外力を仰いで抗戰を繼續するために必死の努力を拂つて建設にとりかゝつた

だけあつて比較的短日月で出来上つたから竣工早々は未だ粗悪のところが多かつたので其後補強工事を行つてビルマ側は這般全部舗装し、支那側は六十七料程舗装を施してあるが、目下盛んに重要のところどころに舗装工事をやつてゐる、然しこの道路の全體を觀察すると峻険を極めて路盤も概して不良であつて殊に降雨期に入ると沿線の土砂崩壊が甚しいのみならず、地勢上凡ゆる悪條件を持つてゐるからトラックの速力や積載量等が大變に減殺される態狀のやうである、このことに關して某専門家の觀測では、

この滇滄公路は蔣政權にとつては唯一の援助ルートであるが、道路の全體から觀察して貨物自動車の速力は平均時速十五料以上を出すことは不可能であり亦積載量も一貨物自動車に一疋以上は無理である。加ふるに沿線は峻険のところ多く山岳地帯では特有の霧靄が立ちこめて夜間の輸送の如きは運轉上極度の危険が伴ふから大きな効果は期待することは出来ない。

と云つてゐる、南坑から昆明に至る所要時間は最少限度で約七十時間もかゝる有様であるが、この途中でガソリンの補給や空襲の待避、車輛の手入等が必要であるからこれ等を考慮に入れると全行程の所要時間は最少限度で七日間を要して往復二週間を費やすことになる、この公路の開鎖前は全線において約一千臺のトラックを使用して一日三十臺乃至六十臺を動かして噸數にして三十噸乃至六十噸の貨物を昆明ラシオ間を輸送してゐたが實際の輸送能

力は百噸位は確實であると云はれてゐる、さうして再開後の現在に於てはビルマ支那國境を越える貨物自動車數は毎月に約九千臺乃至九千五百臺であるとのことである、這般支那紙に依る支那側の宣傳によると、毎日に三百噸月に九千噸の輸送が出来てゐる。又日に六百噸月に一萬八千噸の輸送能力を有してゐると云つてゐるが、この公路の料程、平均速度、平均積載量、沿線の狀態等凡ゆる條件を睨み合せて觀察すると毎日百噸の輸送をするには最少限度トラック二千臺を必要とするから支那側の宣傳による毎日六百噸の輸送を行ふには實にトラック一萬二千臺程を必要とする勸定になる譯である。然し現在この公路の狀態とトラックの關係上到底こんな輸送力は實現不可能と見るのが至當であらう。しかもこれ等は往復輸送の場合であつて、若し片道輸送の下にラングーンから無制限にトラックを昆明に向けて輸送する場合に於ては所要トラック數はその半數で足ることになるが、海外からの補給物資に對して外貨獲得のため又は借款の擔保物件を輸送するために現在に必ずしも片道の輸送のみではないから、これも亦將來を期するに過ぎないと思はれるのである、一外人がこのルート踏査記を書いてゐるがそれに依ると、

トラックは焼けつくやうな太陽の直射を浴びて、どしどし非常に乗る位動搖されながら進んで行く、蜿蜒と連なる荒野の道を一列に並んだトラックが曲りくねつて通る有様は丁度

大蛇がうねつて歩むやうな恰好である。道端には青竹や芭蕉が繁り又時には棕櫚の木も見られてこゝ等の風景は熱帯をつくりである。

これはまだ支那領に入らないビルマ・ルート的一般状態であるが。國境の曉町を出發して、チオフアンを過ぎた僕等のトラックは芒市に着いたが、この芒市は常夏の國である、雨季には非常に冷える、僕等の旅行中芒市では毎日く〜雨がしと〜と降つて薄暗い上に底冷えがして初夏といふのに丁度冬の夜のやうに陰氣である、道路といふ道路は雨のために非常にわるくなつてゐて、どうかすると泥土に車があり込んでなが〜一二時間もかゝつてやうやく出すといふやうなことも度々あつた、この附近は毒蛇や蚊が多く又マラリヤやオコリが特に流行してゐる、しかも芒市等の道には至るところ豚の糞や腐つた腸などが捨てゝあつて臭いことは夥しい。

とて色々この公路沿線の風俗等に及んで。

ビルマの施保、興盛、貴概、雲南省の遮放、芒市及び猛牙など雲南ビルマの邊境には多くの土司がある、彼らはその地方く〜の統治者で絶大な権力を持つて居り、又經濟的には大地主としてその管轄下の土地を擺夷などに小作させてその産物の一割乃至二割を納めさせてゐる、人民もまた珍らしいものが手に入れば何でもまづ土司に貢ぐことになつてゐる、政治的には土司は司

法、立法、行政の三權を一身に集めて人民を裁判し使役し又彼の意志で新しい法律を制定することが出来る。このルートの建設に土民を多數徴發して使役せしめたのも土司の力が非常に働いてゐる、彼には多くの屬官あり秘書と司法官と女官が一人づゝゐて毎日彼に代つて政治を見てゐる。土司は多妻制であるが彼らは多くの妻妾の他に多くの婢女を養つてゐる。

こゝで一寸面白いからもう少しこのビルマ・ルートに關聯して土司のことを書いたのを見ると。

土司は社會上からいへば、封建領主であり支配下の民衆は中世紀の農奴に等しい僕等は遮放で一人の漢化し且洋化した一土司と會見することが出来たが、この遮放は國境町の曉町から三十八キロこの道は比較的によい方であるが、舊の住民は華僑の運轉手やこの公路の各機關の職員や少數の漢人を除けば全部擺夷である。僕等はトラックである小さい河を過ぎた頃に同行の一人が一軒の洋館を指してあれはこの地域の土司の別荘だと教へてくれた。この土司は洋館に住むほどハイカラである。西南運輸公司の遮放事務所は土司の役所内にあつて非常に豪壯な建物で主家には清朝時代に大官から贈られたといふ畫や額がかけてあつた、この公路の運輸處の沈副處長の紹介で主家と離れた一棟の立派な建物の二階に住んでゐる土司に會見したが部屋は豪奢なもので什器は全部紫檀作りであり、壁には蔣介石と龍雲の

寫眞がかけてある。

と、土司生活の状況を委しく書いてある。

龍陵は民族の境界線であるから西には山頭人や擺夷が多く漢人は稀に見る位である。龍陵は民族的にこゝから以西と違つてゐるばかりでなく、地理的にも相當の差異がある。畹町や遮放芒市などは海拔千五十メートル温度は平均八十度以上で建物は何造りで野生のゴムの木や椰子などがあるが、龍陵では土地は高く海拔二千二百メートルで保山では二千六十七メートルあるから温度も平均七十度以下で建物も土の壁や煉瓦造りで植物も松柏などが多い道路も従つて畹町や芒市通りのやうに平坦でなく坂道が多くなつてゐる。龍陵から保山までは百四十一キロであるが僕等は正午龍陵を出たが保山に着いたのは夜も既に更けて下弦の月が薄ぼんやり保山の城外を照らし怒山山脈の峰々が夜空に屹立してゐた、この怒山山脈は西康省から發して高黎、貢山の諸山脈と平行して南北に雲南の西部を走つてゐるがこれ等の山脈の間にサルウエン河が滔々として南に向つて奔流岩を噛み岸を洗つてゐる、この邊が公路建設にも至大の難工事でもあり又輸送上霧や靄等で危險性の多いところである、保山はこの怒山山脈の端にある古い縣で雲南省中最も地域が廣く人口も三十六萬六千戸程ある。住民の九十%は農民で其の他は大工あるひは家内工業に従事してゐる。教育施設は省立中學校一

校、私立中學二校、小學校三十あつて、地方教育局の指導下にあるこの保山はビルマ・ルートの沿線中將來最も繁榮が期待される土地で縣内の埋藏資源は極めて豊富であり、小工業が相當に發達してゐる兎も角この公路沿線では一大商都市として將來の發展が期待されてゐる。

これがこの公路を踏査した一記者の實地見聞談であるが我軍の爆撃等によつて橋梁路面等は屢々切斷され爆破される状態であるから時々交通上の不能を來してゐる有様である。現に昭和十五年十月十八日同公路再開の日に我が海軍の精銳部隊が長驅雲南省の密雲を衝いて功果橋に最初の爆撃を敢行して以來屢々惡天候をついて同援蔣路の要衝を爆撃して援蔣路を完全に切斷したのであつた、さうして同公路再開以來昭和十六年四月下旬までに海軍機が功果及び惠通の兩橋を爆撃した回数は實に十八回に及んでゐる、從來この援蔣公路を通じて第三國からの援蔣物資は月額四千噸乃至一萬噸といはれてゐたが、この遮斷の與へた効果は大なるものがあつた。米國は此ビルマ・ルートを米國空軍でコンヅオイをやるとの風説が傳へられてゐるが米國當局は果して如何兎も角援蔣ルートとして吾人は最大關心を拂ふ必要がある。「十二月八日記」果然十二月八日午前六時大本營陸海軍部發表として帝國陸海軍は八日未明西太平洋において米英兩軍と戰鬥状態に入つたと發表したのである。一層このルートに注意を喚起する必要がある。